

TC(トリートメントコーディネーター)

和田奈美

歯科衛生士



 nami.dh8tc

ビジョン

保険、自費関係なく、想いが届く治療説明をする歯科医院をもっと増やし、日本人の全身の健康観を高められるようなクリニック研修を行なっています。

歯科クリニックにおいて、患者との信頼関係づくりや治療内容の理解促進は、経営やチーム運営に直結する重要な要素です。歯科衛生士として臨床に携わる中で「伝えること」の重要性に気づき、TC(トリートメントコーディネーター)として多くの歯科クリニック支援を行ってきた和田奈美氏。

TCという役割が歯科クリニックにもたらす価値や、現場に入り込み仕組みを整えることで実現した売上アップ、スタッフの離職率改善の実例を紹介します。歯科衛生士の新たなキャリアの可能性や、持続可能な歯科医療のあり方を考えるヒントをお届けします(2025年12月取材)。

歯科衛生士として歩んだキャリアと、伝える力の重要性に気づいたきっかけ

まずは、和田さんが歯科衛生士を目指されたきっかけから教えていただけますか？

正直にお話すると、最初は「資格職なら食いっぱぐれないだろう」という現実的な理由でした(笑)。母子家庭で育ったこともあり、母の苦勞を間近で見ていて、とにかく生活に困らない安定した仕事に就きたいという思いが強かったんです。

最初から歯科衛生士一本で考えていたのでしょうか？

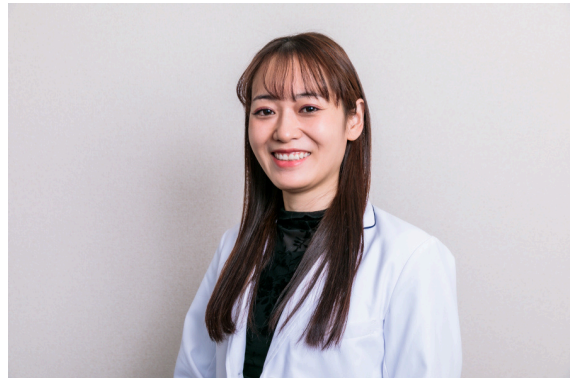
いえ、実は当初、もっと簡単に取れそうな歯科助手の資格を取ろうと思っていました。当時の私にとっては「歯科助手さん」の方が馴染みのある言葉だったので。でも、進路について担任の先生に相談したところ、「歯科業界に進むなら国家資格である歯科衛生士の方が良いよ」とアドバイスをいただき、進路を変更して専門学校へ進むことに決めました。

専門学校時代はどのような学生生活でしたか？

一言で言うと、地獄のようでした(笑)。勉強さえしていれば良いというわけではなく、校則が非常に厳しかったんです。髪の色やスカートの丈など細かく指導されました。ただ、そんな厳しい環境でしたが、無事に国家試験に一発で合格し、歯科クリニックでのキャリアをスタートさせることができました。

実際に歯科衛生士として働き始めて、どのようなことに力を入れていましたか？

働き始めて1~2年目の頃は、とにかく技術を磨くことに没頭していました。学会に参加したり、勉強会に行ったりして、技術があれば患者さんを治せると信じていました。最初は松戸の一般歯科で働き、その後埼玉県の歯科医院へ転職しステップアップしていきました。



そこから考え方が変わる転機はありましたか？

はい。臨床経験を重ねる中で「技術だけでは治らない患者さんがいる」という現実直面したんです。「治療」というと「手術をすれば治る」「薬を飲めば治る」というイメージがあるかもしれませんが、歯科治療は一度治して終わりではありません。患者さん自身の日々のセルフケアや、お口の中への意識が変わらなければ、せっかく治療してもまた悪くなってしまう。そこから、技術と同じくらい、あるいはそれ以上に「患者さんに正しく伝えること」が重要だと気づき始めました。



TCとは？ 歯科クリニック経営に不可欠な役割

その後、キャリアの中でどのような変化がありましたか？

プライベートな話になりますが、結婚や引越しを機に働く場所を変えました。3件目に勤めた歯科クリニックが大きな転機になりましたね。そこは保険診療だけでなく自費診療も多いクリニックで、私はそこでドクターの説明を補足する役割を任されるようになったんです。



それがTC（トリートメントコーディネーター）業務の始まりですね。

そうです。最初は院長先生から「やってみてほしい」と言われて始めたのですが、実際にやってみると患者さんと話す時間が格段に増えました。そして、私が介入することで患者さんの「デンタルIQ（歯に対する意識）」が明らかに向上するのを実感しました。

「TC（トリートメントコーディネーター）」とはどういうお仕事なのか教えてください。

イメージとしては、歯科における「カウンセラー」のような存在だと思っていただければ分かりやすいです。ドクターと患者さんの間に立って、治療内容の相談に乗ったり、補足説明を行ったりする役割です。資格としては、「日本歯科TC協会」などが認定している民間資格になります。



その資格を持っている方は多いのでしょうか？

実は、資格を持っている方自体は結構多いんですよ。ただ、資格は持っていても、それを現場で実際に活用できているかということ、別問題なんです。「資格はあるけれど、活かせる環境や仕組みがない」という方が非常に多いのが現状です。

和田さんは、どのような方にTCをおすすめしますか？

もちろん歯科衛生士も適任ですが、私はどちらかというと「歯科助手」の方に おすすめしていますし、実際に私が教えているのも歯科助手の方が多いです。国家資格を持たない歯科助手さんにとって、患者さんと深く関わり...



続きはQRコードからアクセスしてください → → →